

学校の耐震化について伺います

8月30日に、「南海トラフ」を震源とする巨大地震と津波被害についての被害想定が新聞等で報道されました。広島県内では、最大約800人が死亡し、家屋約2万4000棟が全壊するとの見通しが明らかになりました。

2007年の県の想定に比べ、死者数、被害建築物ともに大幅に増えており、福山市でも、震度5強から震度6強となり、一刻も早い耐震化が求められています。

現在、福山市内の小中学校の優先度調査・一次診断はすべて終了し、二次診断についても今年度の3月で終了との事です。

しかし、小中学校の耐震化率は、47都道府県の平均84.8%の中、広島県は62.5%にとどまり全国ワースト1であり、県内23市町では福山市は42.7%で県内の市町でも下から2番目です。41ある中核市の中41番目で最下位、大変遅れている状況です。

この耐震化が進んでいない現在の危険性について、どのようにお考えなのかご所見を伺います。

本年度末の見込で、震度6強で倒壊の危険が高いIs値0.3未満の市内の校舎は15棟、倒壊の危険性があるIs値0.3～0.7未満の校舎・屋内運動場は93棟もあります。

耐震化が遅れていた大阪府高石市は、2009年の調査では耐震化率 9.1% だったものが、わずか2年で100%を達成しています。担当者は「全国最低クラスだったことに危機感を持った市長が、市政の最重要課題として取り組んだ結果」と、報じられています。また、文部科学省の見解では、「首長の防災意識、熱意の差が結果に表れた」と指摘をしています。

地域のお母さんたちは、今回の報道をみて「我が子が通う学校は地震による被害はどこまで大丈夫なのだろうか？早く対応をしてほしい」と言われています。

子ども達の命を守るため、また災害時の避難所確保のためにも耐震化率を上げる事は緊急の課題です。今後、福山市としてどのような取り組みをされるのでしょうか。お考えをお示し下さい。